

## ■ 平成28年8月29日 厚生委員会県内調査

### 1 南奈良総合医療センター（吉野郡大淀町大字福神8番1）

【調査目的】南奈良総合医療センターの概要について

【調査概要】

<説明の概要>

#### ●南和広域医療企業団の概要について

- ・南和広域医療企業団としては、南奈良総合医療センター、吉野病院、五條病院の3病院と1つの看護専門学校を運営している。
- ・南奈良総合医療センターは、南和で唯一の中核病院で、救急の受け入れを行っている。
- ・五條病院は、一旦閉院してリニューアル工事を行っているところである。来年4月にオープン予定である。閉院期間中は五條診療所を設置し、五條市内の患者の診療を行っている。
- ・五條病院にあった看護専門学校を引き継ぐ形で、南奈良総合医療センターに併設している。

#### ●これまでの経緯について

- ・南和地域では、6割の方が圏域外の病院に入院していた実態から、この地域の医療を立て直すことを目的として議論されていた。
- ・平成22年5月に奈良県・市町村長サミットで南和地域の医療再編、公立病院のあり方について検討を行うための協議会を設置について合意され、7月に南和の医療等に関する協議会を設立。
- ・平成24年1月に一部事務組合南和広域医療組合の設立許可を経て、平成26年4月に南奈良総合医療センターの工事に着手、平成28年3月に竣工。平成28年4月に南和広域医療企業団に移行し、南奈良総合医療センター、吉野病院、五條診療所及び看護専門学校の運営を開始した。

#### ●南奈良総合医療センターの目指すべき医療について

- ①地域の救急を断らない病院を目指して救急医療を強化  
24時間365日、救急患者を受け入れる体制をつくる。
- ②災害対策の医療を強化  
この地域の災害に対する医療体制をつくる。
- ③在宅医療やへき地医療の強化など地域に密着した医療サービスを強化  
地域に密着した医療サービスを強化する。

#### ●南奈良総合医療センターの概要

- ・25の診療科を有する。
- ・チーム医療を行うセンター機能として、救急センター、消化器病センター、リウマチ・運動器疾患センターなどがある。

#### ●4月から7月の稼働状況について

- ・特に南奈良総合医療センターでは、稼働率が当初の目標を100%とすると、入院では大幅に上回っている。
- ・吉野病院では、入院は当初の目標を達成していないものの、外来ではほぼ目標通りの稼働率となっている。
- ・救急搬送については、4月から7月で1,521件、1日平均12.5件となっており、昨年度1年間の南和3病院の救急搬送の受け入れ件数が2,086件で、1日平均の5.7件を大幅に上回っている。
- ・南和地域で発生した救急搬送は、1,629件あり、南奈良総合医療センターでの受け入れは1,096件と受け入れ率は67.3%である。残りの30%余りは、3次救急であったり、本人のかかりつけの希望によるものであり、南和で発生した救急搬送についてはほぼ100%断らずに受け入れているのが現状である。

【質疑応答】

Q：これまでにドクターヘリを使用するような事案は何件くらいあるか。

A：6月までに、ドクターヘリと防災ヘリの訓練を行い、7月までに受け入れ体制は出来ているが、現時点で要請はまだ来ていない。

Q：在宅医療について、南奈良総合医療センターの特徴的な取り組み状況を教えてほしい。

A：五條病院の頃から、在宅医療支援ということで訪問診療あるいは訪問看護を実施している。当センターと地域の診療所、訪問看護ステーションと連携しながら、診療車や訪問看護ステーションで対応できないような患者等について当センターから訪問診療、訪問看護を行っている。現時点で約20名の利用者と、月50件から60件の診療を行っている。

Q：センター機能のあり方について教えてほしい。

A：基本的にはチーム医療というイメージです。複数の診療科に放射線科なども加わって診断治療にあたるというふうに、診療科横断的に行うものである。

Q：胃がんによる死亡率が南和では男性がワースト14位、女性がワースト15位と悪い死亡率であるが、この原因は何か。また、死亡率低下に向けた取り組みはあるか。

A：検診率の低さが原因の一つと考えられる。がんについては、早期診断、早期治療が死亡率を低下させると考えられる。検診等の啓発なども大事であると思っている。



## 2 介護老人保健施設かつらぎ（葛城市林堂360-1）

【調査目的】介護老人保健施設かつらぎの概要について

### 【調査概要】

#### <説明の概要>

##### ●沿革

・平成18年7月に介護老人保健施設かつらぎの本館を設立、平成27年1月に東館をオープンした。

##### ●理念

・三つのところ

感謝のところ、奉仕のところ、伝統のところ

##### ●施設概要

・介護老人保健施設とは、在宅復帰を目指す施設である。病院に入院された方が、介護老人保健施設でリハビリを行い、家に帰ってもらうという趣旨の施設になる。

#### 【本館】

従来型・・・病院のように個室や2人部屋、4人部屋があり、合計80床。2階が多床室、3階が個室になっている。

通所リハビリの運営・・・定員は40名で、概ね35～36名利用されている。

### 【東館】

ユニット型・・・すべて個室の施設であり、合計80床ある。

定員・・・1ユニット10名×8ユニット。

- ・ユニットごとのグループで生活するスタイルとなっており、家に近い生活を営んでもらうという趣旨でこのようなスタイルになっている。
- ・オープンして約2年で、93%から95%の稼働率となっている。

#### ●現状

- ・入所者の平均介護度は3.3であり、平均年齢は男性83歳、女性87歳である。近年は男性の利用率も上がっている。
- ・近年申込者数は減少してきている。近隣に介護老人保健施設が多く出来てきたのが原因と考えている。
- ・本施設では、創作活動に力を入れて取り組んでいる。

#### ●今後の展望

- ・地域包括ケアシステムを積極的に進めていきたいと考えている。

### 【質疑応答】

Q：入所者の何%くらいが家庭に帰るのか。

A：当施設は在宅復帰支援加算をとっており、本館で30%程度家庭に帰っている。

Q：夜間の介護士の配置はどのようになっているか。

A：本館は、2フロアで介護職員が2名ずつ、看護師が1名の5名体制である。東館は4フロアで介護職員が1名ずつ、看護師が1名の5名を配置している。

Q：申し込み率の低下について、原因はどのように考えるか。

A：近隣に介護老人保健施設が増加していることだと考えている。

Q：看取りの場合は、病院への転院という扱いになりますか。

A：当施設では看取りを積極的に行っている。家族が最後まで付き添えるというメリットがある。

Q：施設運営の観点から地域密着型の取り組みをされているか。

A：大阪では地域密着型も行っているが、奈良県では行っていない。

